

今月の逸品

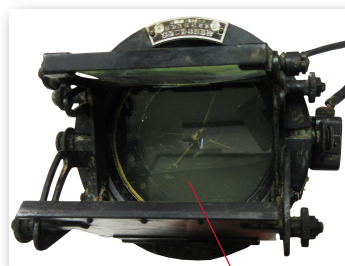
NO.35 2018.02



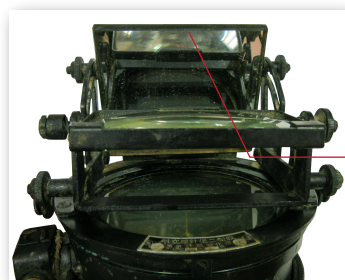
航空羅針儀二型改 KE3

株式会社 東京計器製作所 製造品番号 24970
 1937 (昭和 12) 年 9 月 φ135×H215mm

羅針儀は方位磁石の一種である。航空機において羅針儀を使用する場合には、急旋回による回転や振動の影響だけではなく、発電機をはじめとする機体に搭載された多くの電子機器の磁場への影響があるため、とりわけ過酷な使用環境に耐えうるものが求められる。この羅針儀は、回転や振動に耐えるために液体コンパスタイプで作られている。航空機が回転した場合においても正しい方位を示すことができるよう、ジャイロ構造を持たせたものとなっており、操縦者は、反射鏡を通して方位を確認することとなる。本資料は、2017年2月に一般の来館者より寄贈された。海軍士官学校を経て、鳥取県米子航空隊中隊長として任に就いた寄贈者の御尊父が、終戦後に整備兵に懇願し、航空機に取り付けられていたこの羅針儀を、記念品代わりにしてもらい受けたという。当時の日本では、陸軍・海軍が各々の航空機を所有しており、昭和13年(1938)9月からの約1年3か月の間には、約1700台の同型の羅針儀が製造されたといわれる。



液体コンパス



反射鏡